合理主義と経営

令和 7 年 8 月 28 日
黒田インターナショナルコンサルティング LLC
黒田　毅

グローバリゼーションにおける潮流は、西洋の合理主義が先端 MBA システムとともに新たな経済の枠組みの形成を世界へ求め、その背後における金融経済とともに新たな世界経済の枠組みを提案するものである。

これらが技術革新とともに世界経済における新たな現実を形成するものである。これらは競争というルールにおいて世界経済の現実が新たに固定化されているのである。

しかし企業が必ずこれら競争原理とグローバリズムにおける自己の構築を求められるものである。

しかしこれらは西洋陣営における巨大な資本力が背後にある限り、それを否定できないのである。

しかし企業の高い競争力の育成は、これら世界経済の統一化においても企業の存続を可能とできるものである。

これらは企業において新たな自己を西洋の合理主義と先端 MBA マネージメントシステムにおいて構築することを要求するものである。

これら現実において為替格差と物価格差におけるグローバル経済の現実へ対峙するのである。これら現実への参加が企業における必題なのである。

これらは日本経済が世界経済に組み込まれること、世界経済の統一化が存在することにおいて誤りでないのである。

結果が答えである。それは世界における現実なのである。ゆえに企業はその結果において評価を求める以外できないのである。

これらが経営判断の要求であり高い知性における企業経営の要求なのである。